

路上生活者

日本では、ホームレスにして振るわれるが話題になっている。実は、ホームレスに加害することはあまり珍しくない。それどころか、何人もの酔っ払っているサラリーマンやストレスを感じすぎる中高、大学生は路上生活者と河川敷に住んでいるホームレスを襲撃したことがある。その理不尽な行為の理由とホームレスの支援に対する組織を見よう。

村田らむという記者はあるホームレスについての記事で「ホームレスに話を聞く身からすると、一般人のほうが怖いと思うことがある」と書いた。たくさんのホームレスの人々は酔っぱらっている人や中高、大学生に蹴られたり、殴られたり、虐待を受けたりすることが多い。殺された場合もある。確かに、ストレスを感じている中高、大学生や酔っ払っているサラリーマンは自分の悩みや苦しみを表す権利があるけれど、ホームレスも人間として権利がある。ホームレスは「臭くても」、「汚れていても」、「怖くても」、暴力を振るわれるべきではない。家がない人でも、人である。

ホームレスはよく河川敷や路地のような公共の場所に住む。公共の場にいるので、誰かに暴力の標的となるように選ばれるかもしれない。しかし、他の行ける場所はない。様々な理由でそれぞれの家を無くしただろう。例えば、リストラや障害、離縁、災害でも起こったかもしれない。特にパンデミックにより不景気のせいでたくさんの人々が自分の家から別の場所に住処を移し変えた。しかし、この問題があっても、人として権利がある。

2020年に、岐阜県にいたホームレス老人が殺された事件に影響されて、朝日大学にホームレス問題の人権教育の実施を求める要望書が提出された。ホームレスに対する暴力を予防するように大事な一歩である。ついでに、様々な地域で「Popolo」や「ステップハウス」のようなホームレスに仕事や家を見つけるのを手伝う集団が日本に存在している。

要約すれば、人々は病気や災害の様々な理由で家を無くしたり、暴力を受けたりする。しかし、貧困の構造の教育や仕事か家を見つける手伝いをする集団が存在している。私たちはその集団に手伝いを上げったり、子供に尊敬を教えたりすることにしましょう。